

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00303

研究課題名(和文) 人形浄瑠璃における伝承と実演に関する探索的研究

研究課題名(英文) An Exploratory Study of Tradition and Performance in Bunraku

研究代表者

細田 明宏 (HOSODA, Akihiro)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：20412801

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、人形浄瑠璃における伝承という問題について、さまざまなアプローチにより明らかにすることを目的とする。代表者および分担者は、単独であるいは連携して、調査および研究活動をおこなった。調査のうち主なものは、人形浄瑠璃の実演家や実務経験者に対する聞き取り調査や、文楽座をはじめとする人形浄瑠璃上演の実態調査である。また実験に基づく定量的研究もおこなった。これらの調査および研究は、学術論文や学会発表、著書として発表された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は次の通りである。聞き取り調査に基づいて学術論文を発表し、人形浄瑠璃における伝承や上演の一端を明らかにした。新聞記事などの資料を調査して学術論文を発表し、近代における人形浄瑠璃の上演の一端を明らかにした。近代における他ジャンルの芸能の上演実態を調査し、その一端を明らかにした。実験に基づく定量的研究をおこない、文楽人形の演技における浄瑠璃の効果を明らかにした。以上のことにより、人形浄瑠璃のあり方を考える上で重要な知見が社会に共有された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the issue of transmission in ningyo joruri (puppet theater) through a variety of approaches. The principal investigator and his/her co-principal investigator conducted surveys and research activities on their own and in cooperation with others. Major surveys included interviews with performers of ningyo joruri and those with practical experience, as well as surveys of actual performances of ningyo joruri and other venues. Quantitative surveys based on experiments were also conducted. These surveys and studies have been published as academic papers, conference presentations, and book chapters.

研究分野：人形浄瑠璃

キーワード：伝承 浄瑠璃 人形操り 演技 語り 文楽 近代日本 芸能

1. 研究開始当初の背景

これまでの研究において、人形浄瑠璃における伝承という問題は、演者の芸談を中心に考察が進められてきた。しかし芸談は研究資料としては限界があり、新たなアプローチが必要である。一方、人形浄瑠璃が実際に上演される際の、演目選定や配役などのプロセスについてはあまり関心が向けられてこなかった。

そこで本研究では、実演者または実務経験者に対する聞き取り調査を行い、そこから伝承あるいは実演がどのようになされているかを明らかにする。彼らの言葉のうちに伝承のあり方を見いだす探索的な方法である。調査・研究は、他のジャンルの研究者とも連携して行う。それらの成果を世に問うことで、人形浄瑠璃研究に新たな視座をもたらして一般社会や学界に貢献するとともに、人形浄瑠璃研究に対する社会的な要求に応じようとするものである。

2. 研究の目的

従来、人形浄瑠璃における伝承については演者の芸談が重視されてきた。明治・大正期の名人の芸談を集めた『浄瑠璃素人講釈』(杉山其日庵著、1926)は現在でも有用とされている(2004年に内山美樹子・桜井弘編で文庫化)。芸能史研究会の2014年度大会は「芸論・芸談研究の最前線」がテーマであった(テーマ企画では、分担者の後藤が発表者を、代表者の細田がコメントーターを務めた)。代表者の細田も、芸談の分析に基づく論文「義太夫節浄瑠璃における口伝と観客/聴客 語りの構造と『前受け(客受け)』」(2016)を著した。

しかし芸談は本来、学術的な研究の目的でなされるものではない。そのため必要な情報が欠落している場合や、発言の真意が正しく理解できない場合があるなど、研究資料としては限界がある。芸談を補う、あるいは芸談に代わる方法による研究が求められているといえる。

さらに伝承は、実際の上演とも密接に関係する。実演を行うプロセス、つまり演目の選定や配役決めなどは、伝承を踏まえてそれを現代の中で実際の舞台として実現させる試みである。いわば実演は、伝承を現代に定位させる試みなのである。しかしこのような実演にまつわる問題は、従来の研究ではほとんど関心を払われてこなかった。

そこで本研究では、人形浄瑠璃において何がどのように伝承されているのか、実際の上演はどのようになされているのかという問題を明らかにするために、独自の聞き取り調査を実施した上で考察を行う。

3. 研究の方法

本研究では、人形浄瑠璃において何がどのように伝承されているのか、そして実際の上演はどのようなプロセスを経ているのかを明らかにし、人形浄瑠璃に対する理解を深めることを目的とする。そのために、()文楽座技芸員に対する聞き取り調査を行う、()文楽公演における演目や配役決定などの実務を担う制作経験者に対する聞き取り調査を行う、()文楽と地方人形座および他ジャンルの芸能との比較研究を行うことで、浄瑠璃に特有の問題を明確にする、という方法をとる。

また伝承や実演に関して、文楽と地方の人形座、あるいは他ジャンルの芸能を比較研究する。従来の研究には見られなかった方法であり、ここに学術的独自性がある。さまざまな研究者が分野を越えて議論することにより、人形浄瑠璃の伝承や実演についての新たな像を創造することを目標とする。

4. 研究成果

本研究では、次のような成果をあげることができた。

(1) 人形浄瑠璃の上演の実態

人形浄瑠璃の実演者および実務経験者を対象として聞き取り調査をおこなった。それらの結果にもとづいて学術論文をまとめ、雑誌上で発表した。

(2) 近代における人形浄瑠璃の実態

近代日本においては、さまざまな形式の人形浄瑠璃が上演されている。それらについて、当時の新聞記事などの資料にもとづいて学術論文をまとめ、発表した。

(3) 他ジャンルの芸能との比較

人形浄瑠璃と共通点を持つ他ジャンルの芸能について、特に近代における上演の実態を中心に調査を進め、学術論文としてまとめた。その結果によって、人形浄瑠璃の上演の特質が浮き彫りになった。

(4) 実験に基づく定量的研究

現在の文楽において、人形の演技がどのようになされているのかを明らかにするため、定量的な研究をおこなった。研究に際しては文楽座技芸員に対する実験をおこなった。人形の演技における浄瑠璃の効果が明らかにするもので、その結果は学会において発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 細田明宏	4. 巻 28
2. 論文標題 二十世紀後半の地方人形座における人形について 山口県光市・島田人形浄瑠璃を例にして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京日本文化論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 細田明宏	4. 巻 53
2. 論文標題 明治期の東京における「娘大人形」について 女性による三人遣いの人形浄瑠璃	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京大学文学部紀要日本文化学	6. 最初と最後の頁 1-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 寺内直子	4. 巻 57
2. 論文標題 春日社伝 倭歌 の音楽構造 南都方楽家・東家伝来楽譜の分析に基づいて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 久堀裕朗	4. 巻 なし
2. 論文標題 鶴澤友路の生涯と浄瑠璃本	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鶴澤友路旧蔵資料目録	6. 最初と最後の頁 121-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細田明宏	4. 巻 27
2. 論文標題 一九七〇年代前半の中国地方小都市における文楽公演について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京日本文化論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺内直子	4. 巻 55
2. 論文標題 明治期楽人サバイバル：旧南都方楽家・東家文書から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 39-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺内直子	4. 巻 53
2. 論文標題 津島神社「太々講神楽」の歴史の変遷 芸能の「地域性」と「中央化」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際文化学研究	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81011960	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 真鍋昌賢
2. 発表標題 明治期大阪における浮かれ節席の様相
3. 学会等名 比較日本文化研究会第3回小規模研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TERAUCHI Naoko
2. 発表標題 Gagaku and the Modern Japanese Empire
3. 学会等名 GAGAKU CRITICAL INTERVENTION LAB: CULTURAL CAPITAL, CULTURAL HERITAGE, AND CULTURAL IDENTITY (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有本泰子・竹内風音・細田明宏
2. 発表標題 文楽人形の演技における聴覚情報の影響
3. 学会等名 HCGシンポジウム2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 真鍋昌賢
2. 発表標題 「美談」研究の可能性
3. 学会等名 重信幸彦先生還暦記念日本民俗学講習会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真鍋昌賢
2. 発表標題 怪異伝承収集の草創期
3. 学会等名 大衆文化の通時的・国際的研究近世班研究会シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 真鍋昌賢
2. 発表標題 浪花節からみる近代の大阪
3. 学会等名 第97回浦江塾
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 真鍋昌賢・細田明宏ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 せりか書房	5. 総ページ数 335
3. 書名 浪花節の生成と展開 : 語り芸の動態史にむけて	

1. 著者名 細田明宏	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 近代芸能文化史における『壺坂靈驗記』 生人形から浄瑠璃、そして歌舞伎・講談・浪花節へ	

1. 著者名 八王子市教育委員会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 八王子市教育委員会	5. 総ページ数 372
3. 書名 八王子車人形調査報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	寺内 直子 (Terauchi Naoko) (10314452)	神戸大学・国際文化学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	真鍋 昌賢 (Manabe Masayoshi) (50346152)	北九州市立大学・文学部・教授 (27101)	
研究分担者	後藤 静夫 (Goto Shizuo) (50381926)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・名誉教授 (24301)	
研究分担者	有本 泰子 (Arimoto Yoshiko) (60586957)	千葉工業大学・情報科学部・准教授 (32503)	
研究分担者	久堀 裕朗 (Kubori Hiroaki) (50335402)	大阪市立大学・大学院文学研究科・教授 (24402)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関